

この日は

2021 Vol.29
(WINTER)

CONTENTS

【コロナ禍における遠隔事業・授業特集】

学長メッセージ	2
遠隔授業のシステム導入について	2
WEBオープンキャンパスの取り組みについて	3
遠隔授業の取り組み	4
県民連携事業（WEB編）神話のふるさと県民大学開催	5
4年生からのメッセージ～4年間の思い出～	6
卒業生からのメッセージ	7
サークル紹介（吹奏楽部）	8
大学祭のお知らせ	8



暖かな日差しの中で・・・



学生会館での学生の自己学習の様子

「コロナ禍に思うこと」

宮崎県立看護大学 学長 平野かよ子

令和2年を迎え、元年度の卒業式を企画する頃から今日まで、私たちは新型コロナウイルス感染症によるパンデミックに翻弄されています。第1波の流行が収まり一息つけるかと思いきや、今や第3波が始まりました。早く治療法が確立し、ワクチンの恩恵を受けたいところです。冬季には様々な入試が続き、まだまだ慌ただしさは続きそうです。

在学生にとっては看護の学習の中核である実習が難しくなり、病棟や施設に伺い、患者さんや入所者の方と直接に接することが限られてきています。患者さんや入所者の方々の感染拡大予防は何にもまして重要なことですので、実習に代わる学内での学習の方法を工夫しているところです。

しかし、このようなことを経験することで、ひとが人の身近で過ごし、自分の話を聞いてもらい、ひとの話が聴けることが、どんなにか心身の安定を得させてくれているかが解ります。看護が他者の傍らに居ることの意義を改めて考えさせられるこの頃です。



「遠隔授業システム導入について (Microsoft Teams)」

総務経理担当 主幹 田原幸治

令和2年4月、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言が全国に拡大され、学生が自宅待機となった全国の大学では、遠隔授業の導入が進み、本学でもMicrosoft Teamsによる遠隔授業の環境整備を行ったところです。

Teamsは、ビデオ会議機能に限らず、資料の共同編集、共有、管理、アンケートやテストなど拡張性のある管理ツールであり、Officeとの親和性も高いことや、本学が使用するMicrosoftアカウントの管理下で使用できるためセキュリティ面の信頼性から選定しています。

現在は、遠隔授業と対面授業を並行していますが、対面授業では、体育館の半面に机と椅子を配置することで十分な間隔がとれる講義スペースや、2部屋をビデオ会議でつなぐことで1つの講義室の人数を制限した状態でも100名程度は同時に学修できる環境を整備するなど感染対策に取り組んだ学修環境を確保しております。

また、遠隔授業では、ビデオ会議システムを活用したライブ配信方式や撮影した動画を保存して閲覧するオンデマンド方式がありますが、一般的に座学での講義がイメージされますので、



遠隔授業用スタジオ

実技系の講義が多い本学においては、遠隔授業でいかに実技系の学修環境を整えることができるのか、教職員のみなさんが日々悩みながら取り組んでおられます。

今後は、Teamsを本学における新たな学修管理ツール及び学内コミュニケーションツールとしても活用していく予定です。

最後になりますが、学生・保護者のみなさんにおかれでは、機材や通信環境等の自宅での受講環境整備にご協力いただきありがとうございました。



体育館での授業風景

WEBオープンキャンパス開催中です!

広報委員会委員長 串間敦郎



本学に興味を持ち、入学を考えている高校生達のために例年7月に開催していたオープンキャンパスを、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、WEBによるオープンキャンパスとして開催し、8月上旬から公開しています。3月末までは、本学ホームページ上で閲覧することができます。その内容について、紙面上にて簡単にご紹介します。

コンテンツは、次の5つに分けられます。

- ①学長からのご挨拶 — 平野学長から本学の教育理念・目的、教育目標と学習支援体制等についての説明
- ②入試概要説明 — 今年度の入試変更点と選抜方法についての説明
- ③キャンパスツアー — 本学学生が大学内のさまざまな施設を利用者視点で紹介します。併せて大学での「学び」「大学生活」についても紹介しています。
- ④学生と教員の声 — 各学年の学生へのインタビューを通して学生の「学びの様子や思い」を伝えます。また教員の教育への思いも語ってもらっています。
- ⑤研究室訪問 — 通常のオープンキャンパスでは見ることのできない研究室を、学生の訪問を通して、教員と学生の繋がりや教員の普段の活動について紹介しています。

アンケートの結果からは、「大学の様子がとても分かりやすく、自分の知りたかったことがたくさん知れて参考になった」「教員と学生の距離が近く、先輩との交流も盛んで気軽に相談にのってもらえそう」等、本学の魅力を多く伝えることができたと思っています。

既に終了しましたが、今回本学を直接訪問することができなかつたことから、本学教員が対応するZoomによるオンライン個別相談会も実施し、入試制度や本学での学びについて等の相談に回答しました。

このWEBオープンキャンパスは、本年度中公開しておりますので、是非一度ご覧いただき、本学受験等の参考にしていただけたいと思います。



詳しい内容はこちらのQRコードからご覧ください。

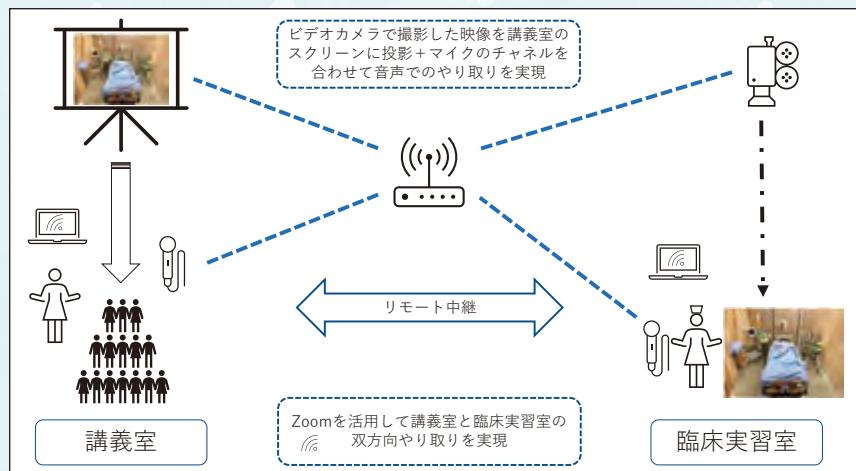
「コロナ禍での遠隔授業の取り組みについて」

●成人看護学●

助手 上 富 史 子

成人看護方法Ⅱ(5セメスター)では、手術を受ける成人とその家族への看護をテーマに、胃がんの手術を受けたA氏を事例として周術期看護を学んでいきます。学生の多くは、周術期にある患者に接する経験が乏しいことから、これまでには術直後のA氏をモデル人形を使って再現し、観察するという演習を取り入れていました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大によりこのような演習ができなくなつたため、図のようなリモート中継を考案し、術直後の患者を学生自身のアセスメントを活かして観察できるような工夫を行いました。教員が患者役と看護師役となり、さらに学生が実際に患者の観察をしているように学生の目線に近い位置から教員がカメラワークを行いました。リモート中継ではありましたが、学生からは「リモートによって術直後の患者の様子が分かった」等の感想が得られました。

リモート中継を実現するためには、事務局や施設職員の協力が不可欠でした。ピンチをチャンスに変えるためには、大学組織全体としてのチーム力が求められるのだと感じました。



図：「双方向リモート中継の概要」

●公衆衛生看護学●

講師 高 橋 秀 治

公衆衛生看護学領域では4年次に選択制保健師教育課程を開講しています。学生は、住民の生活する地域に出向き、住民とその生活を支える様々な関係職種、関係機関と関わることで保健師として必要な学習を行っています。今回、新型コロナウイルス感染症の流行により、6月の臨地実習Ⅲ(市町村実習)は臨地での実習が難しく、学内実習での対応となりました。しかし、保健師にとって支援の対象となる地域を捉えることが必須であるため、感染予防に十分に注意した上で、1日のみ地域に出向き地区踏査を行いました。また、対応が可能な市町村では、学生が地域に出向いて感じた疑問等をビデオ通話を使って保健師と意見交換をし、地域の理解を深められるよう工夫も行いました。その他の授業においても、Microsoft Teamsを活用した動画配信型授業の実施や、オンデマンド教材を用いた家庭訪問の学習、ビデオ通話を活用した卒業研究指導などの教育を行っています。遠隔授業を行うことで感染予防に十分努めつつ、これまでと同様の学習効果を得ることができるよう領域教員が一丸となって実習受入機関と連携して教育を行っています。



地域特性について市町村保健師との意見交換を行う学生

神話のふるさと県民大学（地域貢献事業）

教授 大館真晴

「神話のふるさと県民大学」は本学と県総合政策部記紀編さん記念事業推進室とで共催する事業です。その目的は「神話のふるさと」と呼称されながら、文学部が存在しない本県において、県民が神話伝承に触れる機会を設け、その魅力を広く発信することにあります。

本年度はこれまでに2回のリレー講座を開催しました。1回目は「出雲の神々と神在月」と題して、千家和比古氏（出雲大社権宮司）、荻原千鶴氏（お茶の水女子大学名誉教授）、川島恵氏（MRT宮崎放送アナウンサー）にご登壇いただき、出雲大社と神在月との関係性について、歴史的・文化的側面から読み解いていただきました。

2回目の講座では「日向神話の魅力～天照大御神を中心に～」と題し、毛利正守氏（大阪市立大学名誉教授）、平藤喜久子氏（國學院大學教授）にご登壇いただき、天照大御神の記述における古事記・日本書紀の共通点と相違点について、論じていただきました。

観覧者については抽選に当選された約150名（2回分）の来場があり、アンケート結果においても高い満足度があり、県民の神話伝承に対する関心の高さを確認する機会ともなりました。

また、これらの講座では、YouTubeのライブ配信や録画配信も併せて実施しました。11月5日現在において、第1回が745回の再生回数があり、第2回目は521回の再生回数がありました。この取り組みにより「神話のふるさと県民大学」を県内だけでなく、広く県外にも発信できたのではないかと思います。

また、これらの講座では新型コロナウイルス感染拡大予防の為、対策を講じてイベントを開催しました。受付箇所及び会場出入口に消毒液を設置し、入場の際は検温を行い、密集・密閉などを回避した取り組みを行いました。こうした取り組みを行った結果、感染者が報告されることがなく、関係者一同、御協力いただいた皆様に感謝申し上げる次第です。



県民大学第1回目の様子



県民大学第2回目の様子

4年生からのメッセージ

～4年間の思い出～

4年 本村彩夏さん

私は県外出身ということもあり期待と同時に不安も抱えながら入学しました。しかしすぐに友達もでき、大変な講義や実習等も共に励まし合いながら乗り越えることができました。今ではその友達は大切な存在となっています。また、休日は県内の色々な場所に遊びに出掛けたり、サークルに参加したり、バイトをしたりしながら4年間充実した日々を過ごすことができました。今は助産師という夢に向かって進学や国試の勉強に励んでおり、将来1人1人に心から寄り添える助産師になりたいと思います。



Best friends

4年 河野結莉さん

4年間で最も想い出に残っているのは「臨地実習Ⅱ」です。初めての長期間の実習で挫けそうになることが多くありましたが、実習担当の先生方のサポートを受け、同じグループになったメンバーや、4年間過ごしてきた仲の良い友達と励まし、協力し合い、患者さんに良い看護が出来るようにと関わることが出来ました。大変だと思うことも多くありましたが、他者との関わりを通して自分の看護観を広げることもできました。



実習メンバーと共に

4年 高田裕里さん

看護の専門性につながる、人間の進化や社会、文化などを学び「人間とは何か」を根本的に見つめ直すことができました。その学びの上に、ナイチンゲールの看護観に基づいた看護について学んだことで、実習では、患者さんの思いに寄り添い、これまでの人生に关心を寄せる看護の奥深さや面白さを感じることができました。また、大学祭での学年を超えた交流や、地域の方々との交流を通して、人と人の繋がりを感じられ、とても楽しかったです。



友人と大学祭にて

4年 堂園真之介さん

本学では、1年生から座学による知識の取得と演習による技術を習得し、2年生の2月に基礎看護学実習を行い、3年生の10月以降、各領域での実習を行います。私はその中でも実習での学びが最も印象に残っています。全7領域で、領域ごとの特徴に合わせた看護の実践や受持患者との関わりから、知識・技術とともに学びを得られただけでなく、看護に携わる者としての心構えも得られたと思います。学習は決して楽なものではなかったのですが、友人や先輩、後輩たちとのサークル活動等はとても思い出に残っています。良い学びと出会いにとても感謝しています。



バスケットボールサークルの仲間たち

卒業生からのメッセージ

「患者さんに寄り添う看護を目指して」

2009年度卒業 県立宮崎病院 豊岡美和さん

私は大学を卒業後、整形外科病棟に配属され、育児休暇を取得後、現在は整形外科・耳鼻科・皮膚科の混合病棟に勤務して1年目になります。整形外科は急性期から転院・退院まで日々変化する患者さんの回復過程に関わるため、幅広い知識と技術が必要だと感じます。看護大での学びを糧に、患者さんの個別性を捉えニーズを予想し、回復に向けて自分にできることを考え、日々の看護を行っています。また、他科の患者さんが入院されることも多く、内科看護にも携わっています。整形外科は元気に退院する患者さんが多いですが、内科の終末期の患者さんと関わることが増え、看取りの場面では「もっとできることがあったのでは」と悩むことがあります。改めて終末期医療の難しさを痛感しています。看護師12年目になりますが、まだまだ知識も技術も未熟なため、周りの力を借りながら日々自己研鑽に努め、患者さんに寄り添った看護が行えるよう成長していきたいです。



「住民が住みたいところで健康な生活を送るために」

2017年度卒業 門川町役場 町民課 健康づくり係 松田夏鈴さん

大学を卒業後、病院勤務を経て、現在は門川町の保健師として勤務しています。看護師の時は、患者様の退院後の生活について考えることがありました。実際、保健師として地域に出てみると、家族で助け合いながら生活されている方がいる一方で、誰にも相談できずにいる方や経済的に生活が困難な方など、住民の抱える健康課題も様々だと感じる日々です。



私の主な担当は母子保健業務です。若年妊娠や貧困家庭など母子を取り巻く環境も多様化する中、我が子を安心・安全に産み育てられ、子供たちがスクスクと育まれるよう関係機関や地域と連携し、支援をしてきたいと考えています。健診の時に訪問に行った母親から、「こんなに大きくなりました!」など声をかけてもらった時はとても嬉しく、やりがいを感じます。保健師として、どう関われば良いか悩む時もありますが、上司・同僚に相談しながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思います。

サークル紹介

吹奏楽部

3年 橋 口 美 咲 さん

こんにちは、吹奏楽部です！

吹奏楽部は現在1年生3名、2年生1名、3年生3名、計7名で活動しています。主な活動としては、学祭でのハートフルコンサートや卒業式で演奏、その他にも地域のお祭りや老人ホームなどの演奏を行っています。7名という少ない人数だからこそ、大学の先生方や大学の卒業生、近くの楽団の方などと合同で演奏を行っており、様々な方と関わりを持つきっかけになっています。また、大学祭では手話サークルとコラボを行い音楽と一緒に手話をやって貰うなどの体験も行っています。地域の方からも楽しかった、また演奏しに来て欲しいとのお声を頂いています。

私たちの目標は、音楽を通して、一緒に演奏する仲間と共に、私たちの演奏を聴いてくださる方に楽しんで頂き、笑顔を届けることです。新型コロナウイルスの影響で活動を自粛している面もありますが、これからも活動が出来ることに感謝しながら、私たちの演奏を聴いてくださる方々に元気を与えられるような活動を行っていきたいと思います。



大学祭での演奏



吹奏楽部の仲間



大学祭のお知らせ



い ちょう
令和3年度公孫樹祭実行委員長 田 所 秀 康 さん

こんにちは、令和3年度公孫樹祭実行委員長の田所秀康です。令和3年度のテーマは「stand by U」になりました。今年のテーマが「unite U」でしたが、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮した結果、中止の判断となりました。そこで、それまで計画していた上級生の意思を少しでも引き継ぎたいと考え、「you」を「U」にする案を使わせていただきました。「stand by you」は、あなたのそばに立つ、あなたの力になる、という意味があります。新型コロナウイルスにより、学生同士の関わりが薄くなっています。このような今だからこそ、そばに立つことで、学生同士が寄り添うことができる大学祭にしたいと考えています。

また令和3年度の公孫樹祭は、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し、学内生のみでの開催となりました。楽しみにしてくださった地域住民の皆様、申し訳ございません。これからも趣向を凝らしていきますので、どうぞ楽しみにお待ち下さい。



実行委員メンバーと共に
(筆者は後列左から2番目)